

《巻頭言》

タバコとその先にある「危険ドラッグ、違法薬物」

済生会滋賀県病院 健康管理センター長 兼 糖尿病・代謝内科部長

稲本 望

小中学校を中心に「タバコに関する授業」を行っています。大阪府の泉南地域(泉佐野市、貝塚市、岸和田市)と病院のある滋賀県東市周辺を中心に行っています。泉南地域は継続して10年弱行っています。伺った当初、中学校は敷地内禁煙でなく、職員用の喫煙室がある時代でした。生徒の皆さんはタバコの中身や依存性、関連病やマーケティングの話動画を写真を中心に説明すると素直に理解してもらえ、年数を経過するとゼロにはならないのですが、タバコを吸いだす生徒は減っていききました。タバコに対する教育機関の取り組みも変わり、学校での敷地内禁煙も広がり、私の伺う公立の学校は全て敷地内禁煙になっています。

タバコに対する環境が変わると生徒さんだけでなく、教職員も変わります。タバコの授業を聞くこと

で、それまで禁煙を決断できなかった先生も卒煙するようになりました。次の年に学校に行くと、卒煙できた先生は嬉しそうに「禁煙できた」と報告してくれます。吸っていた先生方は依存症や禁断症状に関して身を以って分かっておられます。生徒への説明やタバコ生活の「しんどさ」も的確に話してくれます。様々なアプローチなり説明がタバコを吸わない・吸っていた先生から生徒に伝わります。学校におけるタバコや違法薬物の授業は年々充実しており、次世代を担う未成年者へ単なる「ダメ」でなく「なぜよくないのか、なぜ吸わない方がいいのか」が正確に理解されている現状です。

その一方、禁煙教育を十分に受けていない保護者のタバコに対する考えや理解は浸透しているとはいえません。生徒さんはタバコを理解し、受動喫



オーストラリアのデザイン統一のプレーンパッケージ

個別銘柄のデザインは禁止

- ・警告文章
- ・警告画像
- ・タバコブランドはフォントを決め、位置は固定

煙の危険性を理解しても家に帰ったらタバコ煙を曝露……喫煙防止教育は重要ですが、彼らを取り巻く環境(保護者や地域住民の皆さん)へのタバコ知識の啓蒙や禁煙の重要性、受動喫煙の危険性を理解してもらうことは重要です。敷地内禁煙をきっかけに学校のタバコに対する取り組みや環境は「無煙」の方向へ走りだしました。これは医療機関も同様で、喫煙する職員への禁煙へのきっかけにもなります。喫煙者を一方的に非難するのではなく、喫煙自体がニコチン依存症という薬物依存症であり、疾病であり、治療できる疾患であることを知ってもらうこととなります。

敷地内禁煙を施行する大学も増えています。非喫煙者で入学する学生さんをタバコを吸わないまま社会に送り出すことは、彼ら自身がタバコで要らぬ評価を受けないという意味で、タバコ関連病のリスクもないまま長い人生を送ってもらうことも重要です。法律で20歳以上の喫煙は禁止されていませんが、大学で「薬物依存症」という疾病を罹患し、将来の関連病リスクを上げる必要はありません。

タバコの次に新たな問題が生じています。「危険ドラッグ」です。これまでもタバコは薬物依存症として“Gateway drug”、薬物の登竜門の位置でした。タバコを吸って、覚せい剤や大麻の違法薬物を始める人がごく少数います。タバコはその関連病だけでなく、違法薬物へ進行する可能性があるドラッグとして危険な存在です。

この数年、脱法ハーブが巷で流行しており、2014年より危険ドラッグに改称されました。海外から様々な方法で入手した覚せい剤成分や大麻成分の原液をハーブに染み込ませて、袋詰めにして販売します。利益は莫大なため、逮捕されるというリスクを承知で、また危険ドラッグ使用者が危

険ドラッグ購入のために売買行為に加わるという構造があります。製造過程が粗雑なため、濃い危険ドラッグが出来上がることがあり、死に至ることがあります。警察庁の調査で2014年は危険ドラッグで111人の死亡者が確認されています。

危険ドラッグは入手が容易なだけでなく使用方法も安易です。紙巻きタバコに危険ドラッグを詰めて吸引する方法があります。タバコ(紙巻きタバコ)がニコチンというドラッグをデリバリーするツールとしていかに効率的かつ容易であることが分かります。20歳代で危険ドラッグを吸引して搬送される患者さんも増えてきています。いずれ未成年者に浸透するだろう、と薬物対策担当の警察官はコメントしています。タバコを含め、ドラッグはその危険性を知らぬ、軽視する人、興味を持つ人たちに近寄ってきます。今後増えていく危険ドラッグに走らないためにもタバコに対する知識とその先に続く薬物依存症を知ることは大切なことです。

全国各地の禁煙に関する団体が主に都道府県単位でタバコに対する授業や講演会を行うようになり、回数も増えてきています。生徒さん、学生さんに対するタバコ授業は継続して行えばタバコを吸い出す生徒が減ったり、大学では敷地内禁煙への後押しにもなります。各地域によって講演する人により話し方のスタイル、人数も1人、複数など様々なスタイルが確立しつつあります。その地域や状況にあわせ特色あるタバコ授業ができてきました。

また危険ドラッグや違法薬物の話もあわせていただけたところもあり、未成年者を取り巻くタバコだけでなく、法律に抵触し、使うことで人生が変わってしまう違法薬物の話もできるようになれば、聞く側にも多くの情報収集の機会となり実りあるものになるでしょう。